ナポレオンの遺書

豊島与志雄

青空文庫

ナポレオンの遺書――セント・ヘレナの島で、臨終より三週間ほど前に、彼が自ら口述し浄書したもので、現に文書保存局に原文が残っている――その遺書の中に、次のような一カ条がある。

予は、セント・ヘレナの手記、及び、最近六年間に刊行されたる、格言或は箴言と題せる著述を、否認するものなり。予の生涯を支配せし規範は、その中に存せず。

然るに、格言或は箴言と題せる著述は兎に角、セント・ヘレナの手記こそは、彼が五年間の流竄の生活中、往時の戦役を追想しながら自ら口述したもので、多くの血と熱とが注ぎこまれていた筈である。それを彼は遺書の中で、一言にして否認し去った。

「キリストはもし十字架上に死ななかったならば神とならなかったであろう。」――「予は全世界より愛せられまた憎まれた。」――というようなことを好んで口にしたナポレオンにとっては、セント・ヘレナの手記は彼の生涯を支配した規範を毫も含んでいないものだったかも知れない。

然し、セント・ヘレナの手記を遺書で否認するところに、彼の痛切な――或は滑稽な――悲痛があった。

唯物論的見地よりすれば、比喩的に云って、人の生活はみな多少とも、セント・ヘレナに於ける囚虜の生活である。そして臨終の間際になって、こういう遺書を書いたとすればどうだろ

う。――某々の事業……某々の事蹟……某々の著述、それを凡て予は否認するものなり。予の生涯を支配せし規範は、その中に存せず。

書くことは問題でないが、書く気持、それを前以て活動期にある自己にあてはめて考えてみると面白い。痛烈でもあれば滑稽でもある。殊に、表現を事とする文学者にとっては、それは痛烈や滑稽以上である。而も、遺書にそんなことを書きたい者は、文学者に一番多いだろう。ふざけちゃあいけない。――と云うのは、或はその生活に対して、或はその遺書に対して。

青空文庫情報

底本：「豊島与志雄著作集　第六巻（随筆・評論・他）」未来社
　　1967（昭和42）年11月10日第1刷発行
入力：tatsuki
校正：田中敬三
2006年4月21日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

ナポレオンの遺書

豊島与志雄

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/